

令和6年度 学校自己評価システムシート (さいたま市立辻南小学校) 学校番号 101

目指す学校像 かしこく やさしく たくましく ~花と歌と愛にあふれる学校~

重点目標  
 1 「『個別最適化した学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」による授業改革  
 2 「認め・褒め・励ます教育」と組織的な体制の充実による、安心・安全な学校の実現  
 3 スクール・コミュニティでの連携・協働の推進で「地域とともにある学校」の実現  
 4 自ら学び互いに高め合う教師集団と互いに支え合う同僚性の高い職場の実現

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和7年2月13日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査において、市平均と比較し国語は概ね平均、算数はやや低い。 ○日頃の学習の様子から、自らの興味のあることについて調べ、発表することに意欲的に取り組む児童が多い。 (課題) ○全国調査、市学習状況調査では、国語・算数とも「知識・技能」・基礎問題が市平均よりやや低く、反復・習熟が不十分。 ○国語では「書くこと」に課題があるため、自分の考えを適切に表現することが難しい児童が多いと考えられる。 ○ICTの活用状況に学級差があるので、児童の発達段階に応じつつ、教員の活用力向上を進めていく必要がある。	・「個別最適化した学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた、ICTの活用と授業改革 ・基礎学力の定着	①「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)」の視点に基づいた授業公開を全教員が年1回以上行う。 ②アンケート等の教育データを活用し、「学びの指標」を基にした指導方法の改善を図る。 ③ICTの効果的活用を目指し、情報共有や実践の共有を行う。	①全教員が視点を明確にした指導案を作成し、年1回以上の授業公開 ②「学びの指標」2回、スクールダッシュボード「授業アンケート」各学期1回実施 ③ICT活用に係る研修を実施、市学習状況調査「ICTを活用した学び」項目が前年度より向上	①全教員が視点を明確化した「イチオンポイント」を記載した指導案を作成し、ICTを活用した授業公開を行った。 ②学びの指標対象者23名中、第2回向上15名同3名下5名であった。低下した者でも、全項目ではなく1項目以上は向上があった。 ③6年全国学調では、タブレット使用9割以上(不利用人数昨年と同じ)であった。	B	・校内研修の振り返りでは、ICTのよりよい活用方法や個別と協働の在り方などが課題に挙がったので、学習状況調査等で児童の実態を踏まえ、研究主題や研修計画を見直して、研修しながら授業改革を推進していく。	・授業参観では、自己肯定感をもって発表する姿が見られた。 ・タブレットの利用が進み、子どもたちのスキルも向上している。 ・ICT活用が進む反面、デジタルに頼ってしまい、読み書きのスキル、自分で考える力や国語力をどう向上させるかが課題になる。また、予習にもタブレットを生かしているようになるとうい。 ・今後子どもたちに付けたい力として、自己アピールすることが必要ではないか。ディスカッションやプレゼン等を通し、自分の意見を発言できる場を増やしていきたい。
		・「認め・褒め・励ます教育」で児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成	①全教育活動を通じ児童のよさに着目した「認め・褒め・励ます教育」を家庭・地域に周知する。 ②アンケートや面談等の記録を蓄積し、児童の状況を把握する。 ③生徒指導と教育相談合同で主催する定例委員会を全教職員で実施し、チーム支援体制を構築する。	①「認め・褒め・励ます教育」を諸会議・各種たより・懇談会等で周知、学校運営協議会での熟議を基に具体的方策を提示 ②心と生活のアンケート「信頼自己」肯定的回答73%以上 ③定例委員会を定期的に開催	①③コーチング研修は、小・中・保護者合同研修会とし、研修後は校内で教職員の振り返りを実施した。定例委員会で全教職員が児童情報を共有することもできた。縦割りの辻南つ子まつり、学年行事での「考動」を意識した指導や取組等、「認め・褒め・励ます教育」によって子どもたちの自主的実践的な活動が見られた。 ②「信頼自己」肯定的回答89%	B	・教職員からコーチングによる児童の変容について効果が聞かれる一方、児童や保護者から教職員の児童への接し方について課題も挙がっている。教職員間で研修したり自らの指導を振り返る場をもったりすることで、教職員のスキル向上を図る。	
2	(現状) ○心と生活のアンケート「自己信頼」項目において、肯定的回答が7割である。 ○R5年度、ケガによる保健室来室者は減少したが、1年生は増加した。 (課題) ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制の構築が必要である。 ○児童が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成	①安全な生活への意識を高めるため、関係する分掌の教員が児童委員会の活動と関連付け、児童を協働した取組を推進する。	①児童委員会による学校保健委員会や生活朝会、集会活動を実施 ②学校評価アンケート安全の項目で否定的回答の3%以下に削減	①運動委員会等のキャンペーン、健康委員会の学校保健委員会での発表など、児童委員会による安全・健康に関する取組を実施できた。 ②「安全指導」否定的回答：保護者2%、児童(災害)2.7%、(保健)8.9%	B	・けがによる保健室来室者は前年度より93名増加。体力や運動能力への配慮が必要である。児童の意識を高める取組を継続していく。	・教職員の指導に、褒めて伸ばす教育の定着が感じられる。一方で、危険が伴う場面では厳しきも必要ではないか。怒ると叱るを分けて対応できるとよい。 ・不審者が多発しているため、学校・保護者・地域が三位一体になって危機管理できるとよい。 ・あいさつの取組はよくなったので、継続したい。 ・子どものケガの増加、体力低下が心配される。体を動かす場面が増えるとよい。
		・コミュニティ・スクールでの重点的取組を「あいさつ」とし、学校運営協議会の熟議に代表委員児童が参加した。 ○市学習状況調査では、地域との関わりに関して肯定的回答が市平均を上回った。 (課題) ○学校運営協議会への児童参加を継続できるようにしていく。 ○保護者から情報発信の方法について改善してほしいという意見が寄せられた。 ○コロナ対応が終わったので、地域や保護者と連携した活動を活性化していきたい。	・コミュニティ・スクールで推進する児童の健全育成 ・家庭や地域との連携・協働による教育活動の展開	①コミュニティ・スクールでの方策を実現するため、学校運営協議会で代表委員児童と委員が話し合う場を設定し、協働した取組を実施する。 ①保護者・地域等が関わる教育活動を全学年の教育課程に位置付け、実施する。 ②様々な教育活動を公開するとともに、デジタルサービスの導入で情報発信方法を改善、学校ホームページの定期的更新を行う。	①学校運営協議会への児童参加 ②学校評価アンケートで家庭・地域との連携に関する項目で肯定的回答90%以上	①第2回に南風委員会児童が参加し、その後南風委員会による学校をよりよくするキャンペーンを全校で行うなど、コミュニティ・スクールと連動した取組ができた。 ②「連携」肯定的回答：保護者93%児童83%	A	
3	(現状) ○教員が学びたい教科を選択する研修スタイルを実施している。 ○経験年数の浅い教職員が多い。 (課題) ○経験値の差をカバーし、学び合う仕組みづくりが求められる。 ○持続可能な働き方を目指し、より働きやすい職場にすることが課題である。	・自ら学び互いに高め合う教師集団をつくる研修の実施 ・同僚性を高めた働きやすい職場の実現	①学校課題研修は自ら学びたい教科を選択しつつ、メンター・メンティ手法を用いた体制とする。 ②持続的な働き方を推進するため、休憩時間の確保・勤務時間調整・「定時退勤日」を実施する。 ③管理職が率先して教職員の声に耳を傾けて職員室の同僚性を高め、働きやすい職場環境をつくる。	①学校課題研修においてメンター・メンティ体制での研修実施 ②45分休憩を確保する日課表策定、調整による確実な休憩時間の取得、毎週水曜日の定時退勤の実施 ③学校評価アンケート教職員の資質向上、職場環境項目の肯定的回答80%以上	①3ヵ年研修の1年目。各教科グループで、ICT活用した授業づくりに成果を感じた振り返りが多かった。教職員が学んだ見識を伝え合う自発的な「プチ研修」も始まり、学び合いの雰囲気さらに醸成された。 ②本部教職員の副担任制により、事務量の多い学級事務を分担するようになった。時間外勤務平均は、R5より14h6m減少した。 ③「自らの資質を高める時間確保」91%、「協力して気持ちよく働くことができる」100%	A	・メンター・メンティを考慮してグループを組み合わせたのが、違う教科では学び合いが難しかった。 ・「時間確保」に課題を感じる教職員もいるので、経験年数や担当学年、校務分掌等を考慮し業務分担を進める。時間外の保護者対応削減のため、勤務時間への理解が得られるよう、様々な場面で周知を図っていくようにしていく。	・教員個々のペースを大切に、若手のよさを生かせるとよい。 ・保護者対応は、子どものことを一番に考え、教員が遠慮しないでほしい。 ・ICT活用で、教職員の働き方が改善されたのがよい。子どものためには、教職員の心の安心安全を守ることも大切である。 ・外部だけでなく保護者にも専門家がいてほしい。
		・地域とともにある学校づくりに関する取組	①学校・家庭・地域で協働した教育活動の実施 ②各学年学期1回以上の教育活動公開、デジタルサービス導入・活用、学校ホームページ週1回以上更新	①年間指導計画に位置付けた教育活動の実施のほか、地域と連携した盆踊り練習会、PTA主催のエコフェスタ等のイベント、教職員の地域行事への参加等、連携・協働した取組が実施できた。 ②デジタル配信サービスで学校・PTA・地域の情報が発信できた。学校HPの定期的更新も行った。次年度に向けた集金デジタル化の準備も進めているところである。	B	・学校運営協議会が児童を支える視点の確認→児童参加→児童会活動への反映→学校生活の充実のサイクルができてきているので、参加した児童以外に連携を伝えたい。		

学力向上に関する取組

安心・安全に関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教職員の資質向上に関する取組